

中齋塾東京フォーラム  
平成 30 年度 第 6 回塾長講話

平成 30 年 6 月 9 日  
於 湯島聖堂

おはようございます。今日持ってきた本は『十牛図』でございます。私は『十牛の図』の「の」をつけて言っていますので『十牛図』これは「の」が無いけれども読むときは「十牛の図」と読んでいます。

今、なぜ「の」の解釈をしたかと言うと、素読論語で無意識のうちに「を」をつけて読んでいました。

**【子曰く、君子は義 以て質と為し、礼 以て之を行い、孫 以て之を出し、信 以て之を成す。君子なるかな】**

気がつかなかったと思いますが「子曰く、君子は義を以て質と為し、礼を以て之を行い」と読みました。その後は書いてある通りに読んでいます。これはもう頭の中に摺り込まれています。頭の中に摺り込まれているから「君子は義を以て」と書いてない「を」を読んでいる。『十牛図』も同じで、頭の中に摺り込まれていると無意識のうちについ出してしまう。これは人から指摘されない限り分からない。

ぱっと浮かんだのが、今日の新聞で無意識の嘘という感じになるとありますが…見つからないので、後で見つけたら出しますが、よくあることだということでちょっとご説明をします。

新聞に書いてあったことを頭の中に入ったもので喋るから新聞記事そのものではないかもしれません。内容は医療の話で、自分の専門分野で検査をおこなった。専門分野のところが疾患はよく読んだ。ただ別に肺癌の疑いがあると記載されていたが、自分の専門外の方野であるから気にしないで読み過ごした。読んでも字面だけ追ったのでしょう。それが他の検査で肺癌が発見された時はもう遅く 2 か月後には死亡した。それが 2 件あると出ていました。これも先ほどの素読論語と同じ話です。「を」というものを頭に摺り込まれているから、勝手に読んだわけです。聞いているだけの人は、その「を」が付いているか付いていないかは見ていないから分からない。同時に「を」と書いてあった時に「を」を読まないで、ずっとそのまま自分の頭の中に摺り込まれているもので読む。それがお医者さんの立場で考えると自分の専門分野は一生懸命に読むけれども、自分の専門外で書いてあるものは見過ごしてしまい、結果として亡くなってしまったということになる。怖い話です。

## 恒例の質問

・今年に入って、良い日が続いている。半年ぐらい良い日が続いている。

曾野綾子の『夫の後始末』という本が売れています。私は即座に買って読んでみたら、ごく当たり前のことを当たり前に書いてある本です。本の題名のつけ方が実に上手で衝動的に買いたくなるような本ですが、書いてあることは一貫して同じことです。よく同じ発想、ちょっと形を変えて同じような文章で、よくずっと稼いでこれたなと思います。あの人の本は不思議。ただ、嘘をついてない。それは一貫している。嘘偽りを言わないで主義主張も一貫してぶれていないから曾野綾子さんは書けたのだなと思います。ちなみに宇野千代さんは途中から書けなくなった。

それから夏木静子の『椅子がこわい』という本を読んだら、腰痛でどうにもならないが、私の病氣はいったい何かと調べたが分からない。最終的に腰痛は精神的なものということでした。要するに自分が自分という名前で色々なことをすると、それが重圧で返ってくる。自分という人間を演じ続けると本人はくたびれて腰にきたということでした。

一瞬間の中に浮かんだものが、5月に急死した和歌山県の77歳の資産家が、よせばいいのにお金をたくさん稼いで、そのお金を世のため人のために使えば良かったものを、己がために、4千人の女性のためにとってアホじゃないかと思いますが、それでも自分で演技をしてしまった。演技に合わせているとどこか痛くなる。自分のやりたい事をやりたいようにしている時は痛くはならないけれど、あの人は命を縮めた。夏木静子は自分のペンネームに負けて腰痛に苦しんだ。

自分の名前と自分の行動に嘘偽りがない人はそんな重圧はないと思います。演技をする人はいっぱい重圧があるのだなと思います。裏表のある人はグサッとくると思います。そして嘘の場合で演技をすると、演技をすることによって嘘をつかなければならなくなる。今の国会を眺めると、明確に自分で虚偽の質問をしているなど思いつつ首相の答えを誘導したいがために嘘をついて誘導していくという嘘の質問をしています。それから村度も同じで、嘘偽りの視点で考えてみると非常に分かりやすい。今の国会、官僚、政治家みんな嘘だらけ。確信犯的な嘘なのか、それとも今のトランプさんや北朝鮮のように嘘で塗り固められた話なのか。駆け引きというんでしょうね。これは中国でもいっぱいありますよね。明らかな嘘をしらっとして吐く。それも駆け引きでやる。この嘘は駆け引きかねという部分がある。

ふっと今思い出したのは、名だたる名経営者といわれる人達も裏と表がある。ご存じなければいづつかお教えいたしますが、人間はそういうことがあいて人間です。ただ人に迷惑をかける嘘はいけません。そういうことで駆け引き上の嘘がある。怖いな困るなというのは保身をするための嘘。これはよくないです。明らかに保身だと思える嘘は駄目です。ということで嘘にも色々あります。そういう嘘で身を誤った人達で比較的わかりやす

いのは政治家と企業経営者。これは結構ぼろがいっぱいありますから、調べればすぐ出てきます。それで嘘の実例を調べるとよいでしょう。

・今年になって、比較的、心に咎められるような嘘はつかなかったなと思う方。

今日は意識して「比較的、嘘はつかなかった人」と言いましたが、自分の心を責めるような嘘。自分を咎めるような嘘は多分ぼろぼろと言ったらグサッとくるから棘が少し刺さります。それは抜けば良い。チクッと刺さるような嘘があったら抜きなさい。そうすれば少しは消えますから。

・今年半年間、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった。

やっぱり人間というのは面白いもので、今、関口さんがドアを開けて入ってきた。それで目の前に座れそうな椅子があるから座ろうと思ったけど、隣に座っている理事長は気がつかなかった。そしたら吉良さんがさっと自分がどいて席を用意した。温かい気が漂ったから温かい氣の方に行っちゃったね。人間って、やっぱり温かい所に行きますね。疲れた時も冷たいものを飲むよりも、温かいものを飲んだほうが体には良いですね。

・今年に入って約半年、健康法を実践し続けているという方。

・今朝、健康法で何か実践してきた方はどうでしょう。

30分ぐらいすると体がちょっと汗ばむぐらいがいいみたいです。私は30分では汗ばないので1時間はやりますが、終わると息が上がります。

大野さんは何分ぐらいしますか。

大野参与ー5分やったら汗びっしょり。

大野さんはあの動き（空手の正拳突きを連続でする）を5分だったら疲れますね。

・昨晚寝る時に、今日は良い日だったと満足して感謝して眠れた方は？同じく明日は良かったなと思った方？

今日は良かったと思うことは普通ですが、明日を過去形で考えられると、明日も良かったと頭の中がそういうふうに変わってくる。

天風先生の言いかたと、明日は良かったと思えるように脳を訓練せよ。脳を訓練して常にそういうことをしていると、脳の中が段々変わってくるからといいます。天風先生曰く、病氣になったら病氣だということを忘れてしまいなさい。病氣を忘れることが最大の治療法である。だから脳も訓練して、明日は良かったと思えるように脳の回路ができてしまえばしめたものです。そうすると良い人生だったと周りからも言われるし自分もそう思

うことでしょう。

・今年の半年間は自分磨きを我ながらよくやったなという方どうでしょう。

自分磨きは自分でひたすら磨くのと、切磋琢磨で同じぐらいの仲間を作って、お互いに擦り合われることがあるとよいです。

・親しい友達がいる方は？

自分が死んだら弔辞を読んでもくれるだろうなと思いますか。それで、この人が死んだらなんとしても弔辞を読むと決めている人はいますか。

それぞれ手が挙がるのは良いですね。親友というのは親しい友ともというし、心の友とも書く。人間が成長していくには、そういう親しい友、真の友、それから心の友というのは最低一人いないと切磋琢磨していく上で成長はしていけない。

ちなみに中齋塾の「中」という文字は、安岡正篤先生流の解釈で私が一番氣にしているものは、混沌とした物がある中でお互いに一生懸命努力して、はっと氣がついたら、ひとつレベルが上がっている。このモヤモヤした部分からひとつ上のレベルに上がったことを「中」という文字で表す。辞書だと真中という解説が多いですけども、辞書の訳はあまり面白くないと思っていたので、安岡先生の解釈はちょっとものが違うなと感じました。あっちにぶつかり、こっちにぶつかって、もがきにもがいて、苦しみ苦しみにぬいて、ふっと氣がついたら自分が苦しんでいる姿をひとつ上から見下ろしている立場に自分が上っていった。上・中・並があるとしたら「並」から「中」にきている。「中」の人は氣がついたら「上」にきている。たぶん死を意識した時にちょっと上に上がるんじゃないかと思う。なにか死生を超越したようなところで「中」という文字が引っ張り上げてくれる。「中」という文字は決して真中・ほどほどではございません。ひとつ上のレベルに到達したときのことを「中」と表します。

## 論語の視点 衛霊公十五

【一四】子曰く、躬しん 自ら厚くして、薄く人を責むれば、則ち怨うらみに遠とおざかる。

自分に甘いなと思う方はいますか。だいたい自分に甘い方は人には厳しいことを言います。だから自分に厳しいと思う方はいますか。

自分に厳しい人は他人にはなるべく寛大にしようと思っています。だいたい対になるみたい。自分に厳しい人は人には甘く、自分に甘い人は人には厳しく。でも自分に甘いから人にも甘いという人もいます。これは自分のことを承知しているからね。

国会はどうですかね。自分に甘いですね。今までの野党が与党になったら、散々叩いて

いたことが自分に跳ね返ってくるから、おとなしい。それで与党が野党になってしまったら、けろっと忘れて盛んに攻めるだけになる。何なんだこの人達はと思う。

「子曰く、自ら厚くして」というのは申しあげた通りです。自分のことはやっぱり甘くたっていいでしょう。そのかわり他人にも甘くする。これが上・中・並の「並」です。「中」だと自分のことは若干、反省する。他人にも、ちょっとは追及するぐらいで、それぞれ少し棘が刺さるかな。相手にもちょっと棘のおすそ分けぐらい程度だったら、たいしたものだとなると思います。

それから「上」は自分自身を厳しく追及して、人を追及するときは厳しくしない。こんな人になったら凄いいけども、周りは疲れるだろうな。こういう視点で世の中、特にマスコミ関係の物を見るとよろしいと思います。

**【一五】子曰く、之を如何にせん、之を如何にせんと曰わざる者は、吾之を如何ともすること末きのみ。**

孔子もこういう嘆き節をしています。嘆き節というのは、どうにも私は手が出ないということ。周りから、どうしたらいいのかって聞いてくれれば、それに対して真剣に考えるが、孔子も疑問を持たない人間を教えることはできない。質問をしない人間は私からは言わないけれど、というこれは嘆き、愚痴をこぼしているなと思います。聞く側にすれば、ここはもうそういう時は忖度しないとやればいんでしょうね。忖度は悪い言葉ではありません。相手の心を慮るのですから、たまたま今の官僚がアホなことをしたから悪いイメージがあるだけの話です。

最初に話した担当医専門外の新聞記事がありました。これは大きく出ておりますので回します。これを読む時に、この方たちはこういう批判をされるような領域のお仕事に就いているから大変だと思えばよい。それで我が身をみて大丈夫だろうと思いつつ見ればよい。自分の身の周りの物に置き換えて新聞は見るといいですね。

**【一六】子曰く、群居すること終日にして、言義に及ばず、好みて小慧を行わば難きかな。**

これは国会そのままです。「群居」は国会で集まっている政治家、官僚をいいます。ただ単純に群れ集まって「終日にして」1日中ずっと朝から晩まで行っても「言義に及ばず」くだらない話ばかりして本質的なもの、正しいことについては全然触れない。自分達の権謀術数ばかりしている。「小慧」は、賢（さか）しら。小賢しい知恵で行うから、ちっとも日本の国のためにならないことばかりをしていると読めば良いでしょう。

ちょっとニュアンスが違うけど、今日の新聞で「認知症の運転 滞る検査」これは官僚

の人達が決めてやりだしたことで、75歳以上のドライバーの認知機能検査を強化した。全国約210万人が検査をしたが、そのうち5万7千人が認知症の恐れと判定された。そのうち4割は免許証を返納した。ただ、こういう検査を義務つけたら教習所がパンクしてしまって、電話をかけても今はいっぱい検査を受けることができない。そこらへんも官僚が実際の数的人数が検査に行くかなどを調べればよいのに調べないで行っていると見えます。それから年金の入力も外注した外注先のことを考えもしないで外注している。自分達で放り投げたら後は知らん顔。これは1日中、朝から晩まで色々な議論をしても、まともなことを議論しないで小賢しい知恵です。だから後々ともない膠着状況に陥って困ったものだと、ここでは読み換えましょう。

【一七】子曰く、君子は義しうぎ 以て質しつと為し、礼れい 以て之これを行おこない、孫そん 以て之これを出いだし、信しん 以て之これを成なす。君子くんしなるかな。

「君子は義 以て質と為し」この「を」を付けなかった理由は、義を強調したいからです。「君子は義」で一回切ります。半文字ぐらい空けてあるのは、ここで一回言葉を切ってくださいという意味です。気がつけば、字が一文字入る大きさがあるにもかかわらず、何でここに空白があるのだろうかとか疑問が出れば良いです。

家庭に置き換えると、やっぱり家に帰ると「ただいま」って言うでしょう。それで奥さん何か言いますか。それとも何も言いませんか。

会員—そんなに言われたいですね。

帰って来た時、弾むように「お帰りなさい」と、玄関まで来て、にこにこしていたらやっぱり何か良いことがあったのかと思いますよね。それで何か良いことがあったのかと聞けば会話が弾む。ところが家の中は暗くて、奥さんがむすつとして「お帰りなさい」も言わない。黙って顔も見ないときは、何だろう、どうして向こうを向いているのだろうかと思わなきゃいけないと、この「君子は義」のところで思ってください。それは奥さんの無言の抗議がある。疑問に思えば、夫婦相和合の道って澁澤栄一が言っています。

「子曰く、君子は義以て質と為し」君子は正しい、義は正しい。「質」は根本、根幹とする。色々な判断基準は正しいかどうかで考えれば良い。「礼 以て之を行」礼儀作法をよく考えなさい。礼という考えかた。礼の作法をもって全てのことを実行しなさい。「孫 以て之を出」孫は、謙遜する言葉と態度。これで実行していきなさい。「信 以て之を成す」信は信頼。信頼は嘘をつかない、約束を守る。それを実行すれば信頼が成立する。ですから約束を実行し続けていけば、これは素晴らしい人物になる。こういう人が本当の君主だと孔子が言ったということです。

自分の日常生活の中で終始一貫ぶれないことが必要だと思います。嘘をつかない、約束

は守る。これはなかなか難しいことです。若干、嘘と約束を守れなかったと若干あるぐらいなら大目に見れば良い。今の世の中で困ることは、嘘はつかない約束は守ることが、国会を見ていると一割ぐらい。それと違うものが 9 割ぐらいはあるから国民の輿感をかうわけです。これが 6 対 4 ぐらいで嘘はつかない約束を守るとやれば、多少はしょうがないんじゃないかなと思います。

今日の素読論語を見ていて、自分は中々できないなとか、修行の身であるとか考えて置き換えてみて「十牛図」は自分がまっとうな人間になっていくときに、十段階あるけれど、どこらへんかなと判断するとき役に立ちます。一から八までが自分のことをベースで考える。九、十が人様のことを思いやる。そういう段階に入ってくると思う。

「十牛図」は、一から八までがひと塊り。九、十がまた別の人生というふうに「十牛図」を読むとよい。天風先生が書いた本は分かりやすい。天風先生の『盛大な人生』の中に入っています。

## 紹介書籍

『十牛図』山田無文著 禅文化研究所

## 基本哲学「知足」

先ほど申しあげた「中」は辞書ですと「真中」と言いました。「足るを知る」は、ほどほどです。右にも左にもあまり行きすぎないようにしましょう。過ぎたるは及ばざるがごとしで過ぎないようにしましょうね。それを実行できたときは足るを知ると思う。この境地、この気分だと思ったら、ひとつ上に上がる。「足るを知る」を実感した人は、「中」という文字が活用できたということです。

## 時事評論

今日の時事評論は、意識的に嘘偽りの視点、嘘の論理でいきましょう。そうすると駆け引きでつく嘘。それから確信犯的なもの、保身のための嘘とか信頼を損なう嘘とか、色々な視点でみたものを申し上げます。

自分に置き換えながらのほうがよいのですが、今日は読売新聞と日経新聞でいきます。駆け引きと嘘つきばかりだと思います。大きく紙面に出ているのが、サミットが開幕をする G7 です。この中で 1 対 6 の駆け引きが始まる。1 対 6 というのは 1 がアメリカあとの残り 6 か国ですけれども、これも完全に駆け引きで嘘をつきあうわけです。それで、いくら

嘘をついてもこういう場合は良いとなっているわけでしょう。

内閣総理大臣が解散の時期は嘘をついてもよい。そういうことが一つあると次から次にこれは嘘をついてもよい。あれも嘘をついても良いと嘘がはびこる。世界的な流れで嘘のつきあいをしていると読める。同時にアメリカと日本で、アメリカは北の制裁解除をしないとかトランプさんは準備万端と言っていますが、この間は中止と言っていたのに、舌の根も乾かないうちにまた再開されました。完全に駆け引きの嘘ですね。本当に中止だと思ったのならすぐ戻すわけがない。単なる駆け引きの嘘。これほど簡単に嘘をつきあう。国家がそうだとするとその中にいる役人達も困ります。何度も言う科白ですけれども、北朝鮮の広報の人は嘘の確信犯だから、目もしっかり前向いてお化粧もきちんとして大きな顔をして堂々と話している。最近の中国の方は発表する時に目が泳がなくなった。アメリカの広報官はどれも信じきっているのか目があまり泳いでないですね。ということで、テレビは大写しにしてくれると目の泳ぎかたが直ぐ出る。嘘をついている時は、確信犯だから目なんか泳がない。例えば二世の議員は、出てきて何か失敗したときは出てこない。最初からみんな隠れちゃう。出てきて集中砲火を浴びたら醜態をさらすことになるからということで、駆け引きで嘘をつきあう。

「イラン核防衛深まる」アメリカのことばかりですが、これはアメリカが自分で渦を起している。ちょっと変わった渦の出しかたで、人の禰で相撲を取っている。よくやるなと思ったものが中国とロシアで北朝鮮に関する問題。腹の探り合いをした結果、経済に関してお互いの意見が一致したので連携を強化しましょう。人の禰で相撲を取ることができるが、果実が来るように中国とロシアが連携して利益になるような動きを世界の世論に訴えていきましょうと一見よさそうな話だけどそうではない。アメリカは自分だけ利益を得たい。今まで仲間だった人は知らないよと 1 日遅らせていたら段々日本やヨーロッパと仲が悪くなってきた。ちょっと横目でみていた中国とロシアが、今、介入していけば、うまい横取りができそうだ。そうだ横取りをしようと、書いてある部分をよく読むと見えてきます。実にもっともらしい書き方です。「中国の習近平国家主席は 8 日、上海協力機構、首脳会議にあわせて中国を訪問しているロシアのプーチン大統領と北京の人民大会堂で会談した。両氏は朝鮮半島情勢や経済、貿易問題について議論し、連携を強化することを確認した」こんなことをいちいち載せなくてもいいと思う。「北朝鮮が核ミサイル発射実験、米韓が合同軍事演習を同時に停止して対話に入る二重凍結提案が受け入れられたことを評価した」確認した評価したって、これを私が読むと「人の禰で相撲を取って良い思いをしたいと意見が一致しました」と書けばいい。こういう露骨な表現でなくてもいいから、ちゃんと日本語として、もうちょっと分かる書きかたをして欲しい。もっともらしい書きかたをしていると若い人は分からないですよ。学生が新聞を読まないのは、何が書いてあるかがチンプンカンプンで分からないそうです。彼らは翻訳する能力を持っていないから。最近、話をする人達の中に 20 代の人結構います。この間も、ここまでは学生を卒業したばかりの次期社長のあなたに対して言うからねとその人にだけ喋って、この先は大人の会話



にしますからと話しましたが、大人も若者向けの話に頷いていましたけどね。記者の質もかなり落ちているから、文章の書きかたも考えたほうがいいと思うし、表現方法も考えたほうが良いと思う。昨日の新聞はもうちょっと露骨でした。「中国とロシア、イラン抱き込み」と書いてあった。これは露骨な表現ですね。何となく自分のところに中国とロシアが仲良くなってイランを自分の陣営に抱き込んじゃえという辺りが結構わかりやすく書いてある。これは書いている人間によってまるっきり違う。こっちの見出しは「中国山東省の青島で開かれる上海協力機構の首脳会議、イランのヨハンニ大統領がオブザーバーとして四年ぶりに参加する」まだ参加してないということなんですかね。「中国やロシアは米トランプ政権の核合意離脱によってふたたび経済制裁に直面するイランを自陣営に引き込む」ここらへんまでは普通の文章ですけども「引き込む思惑もあるようだ」と書いてあると、推測ですよ。思惑という日本語は、何となく邪な、腹黒いというイメージが湧きます。これ読んでいきますと、その時その時で何々があるようだ。何々が予測されると、断定が無いのです。これみんな伝聞です。私が思うことは、記事を書いている人達は自分で署名して、それをチェックした人はどこの部署の誰だと、みな載せるべきだという気がします。大変かもしれませんがね。そうすると最終的に責任を負うのは誰だということが分かります。今のところ読売新聞は読売新聞、日経新聞は日経新聞でしか分かりようがない。

責任がない人は困りますが、日大は酷いです。あの理事長は表に出てこないけれど理事長の写真だけはよく紙面に出来ますね。これも面白いもので頭を下げている場面を写真で撮る。これは病院の院長が頭を下げているところですけども、不祥事が起きて頭を下げる。テレビなら3分間ずっと頭を下げ続けている人を流していますが、意図的にちょっと下げたところを写真に撮ってそれを載せる。そうすると与える印象がまるで違う。あれは本当に影響が大きいと思う。

よくありますけれども、日本語は面白いもので「まことに申しわけなく謝罪いたしたいと思えます」と言いますが、謝罪してないですね。謝罪しなければいけないと思っているだけで「申しわけありません」と言っていない。申しわけないと思っております。腹の中は全然思っていないということだから、こういう文章は怖いな。

それで嘘のつきかたですが、確信犯は危機管理もよく研究しています。こういう表現をする、こういう態度を表すと世間から糾弾される・されないみたいなことをチェックして勉強しているからそれなりのことができますよ。ところが腹は黒くない、ついうっかりミスの人達は慌てふためいてしまって、頭の下げかたが足りない。言葉遣いも分からないから、重箱の隅をほじくれる人達からほじくられて、あげ足を取られる。一見よさそうな会見をしている人は、したたかだなと思ってみます。慣れていないなこの人はと思うものは情状酌量をしながら聞いてないと自分の判断するところでちょっと間違えてしまう。そう思います。

それから日本の金額がでている記事も出そう。見出しとしては財務省の話で、出だしはこんな荒唐無稽な数字を示されても財務官僚たちは当惑を隠さない。これは税務士で衆

議院議員の自民党の若手が首相官邸に提言した今度の経済政策で 20 兆から 30 兆の経済政策と国の 18 年度の投資予算は 97 兆円。この何兆円、何兆円と書いてあるけれども、ここに出ているものは財務省に騙された。安倍信三首相は 15 年 4 月に消費税率を 5%から 8%にした時、自分の経済政策アベノミクスは台無しになりかけたというような記事です。安倍信三首相は財務省に騙されたと公言しているわけですね。ここに至るまでの金額が凄ishi酷い。今までの歴代首相の中で小渕さんが世界で一番の借金王になったと平成という額を掲げた時に名前を出した当時の官房長官、後の総理大臣です。小渕元首相が出した 1998 年の規模が 24 兆円。過去の最大規模の経済対策というふうに書いてありますが、小渕さんの時の 24 兆円というのは歴史上最大規模の経済対策。その時は、これだけやれば大丈夫だが世界一の借金王になったと小渕敬三元首相は自重した。その後 2009 年麻生内閣は 56 兆円を上回る経済対策を打ち出した。小渕さんが 24 兆円で過去最大でしょう。その次は、どんと抜けて麻生さんは 56 兆円。今回の安倍さんは現時点で、ここに書いてあるものは 70 兆だけれども現時点でというのは予算が 97 兆円だから、お金だけは凄しく跳ね上がっています。ということは「これだけやれば大丈夫。これだけで大丈夫」と、これみんな嘘ではないか。言ったものは皆ひっくり返って駄目になる。駄目、駄目の繰り返しで過去は全部駄目だったという記事がいっぱい出ています。それで今回は、なるほど本当に信用してないなと思うものは、財務省が国有地売却に関する決済文書の改ざんを認める調査結果を公表しても鵜呑みにせず、独自に資料の分析を指示したとある。財務省が言っても信用できないから、自分で別に調べる。また別の所に指示したよと書いてある。これほど内閣総理大臣の信頼を損なっている財務省はこれからどうなるのかと予測させる記事ですね。そういうことで、国会、政治家、官僚の中は不信と嘘、まあよくこんなことで日本の国がまわっているという印象です。

おまけにアベノミクスと最近いわないけど、総裁の名前が出てない。以前は日銀の話の時には黒田といっぱい書いてありましたが、具合が悪くなると黒田は消えちゃった。アベノミクスじゃなくてクロノミクスって途中で言っていました。それだけ 2 人で仲良くやりましようやっていたけれど、こここのところで見ると日銀が潰れますよみたいなことが書いてある。

「日銀の自己資本は底をつき債務超過に陥る。日本経済研究センター3月。金融緩和の出口で待ち受ける未来に警鐘を鳴らした。2022 年度に 2%上昇の物価目標を達成した場合に 24 年度からの 7 年間の損失計 19 兆円になり 8 兆円の自己資本が吹き飛び債務超過に陥る」という見通しを書いている。8 日金曜日の日経新聞です。やっぱり新聞というのはこういうことも書くべきだなと私は思います。ところどころ自分が調べたいと思うような記事や文章がありますから、自分で引っ掛かって、これは調べたいと思ったものは調べればいい。そのために新聞は今使えば役に立つと感じます。

それから今回は企業で駄目だなというのはあまり出てなくて、昨日の日経新聞でホンダが GM と EV 電池…日本語じゃないんだね。横文字と英語が混ざって日本語になっていま

すから、これでも意味は何となく通じるから日本語ってというのは不思議ですね。

だいたい今までは、どこそこと合併とか、どこそこの会社が M&A を仕掛けたとかそういう書きかたで、同時にこういうことを誤魔化したということが出ていました。そういう流れが一段落してきたなと思ったら、最近の新聞記事ここから見てホンダが GM と EV 電池を北米向けに共同開発と書いてある。これ裏側にあるものは何か。

最近の企業が M&A をする時の根っこにあるものが変わったなと思うものは、以前は対等合併とか新しい仕事を増やそうとか、自分の体を大きくしましょうという考えかたで時間を買ひましょうという言いかたをしていました。今は同業者じゃなくてお客さん。大手のお客さんを買ひ占めようとしている。△会社はお客さんだった○会社が、このお客さんにもっと買わせようと思ったら○会社は△会社を押さえてしまう。そうするともっと買えと言い、割高で売るけど文句言わずに買えとなる。だから最近の M&A のやりかたがまるっきり根底から変わり始めました。

それから保険会社も今まではお金を払って保険金を積み立てて自分が事故を起こしたり病気になったりしたら、たくさんお金が貰えますという方法でした。

私の印象では、保険会社にお金を積み立てるけれども同時に健康でいくために毎日 5 千歩は歩き 1 年間ずっと間違いなく歩いたところをスマホで確認して、素晴らしい健康のための運動を実践し続けた人で 1 位になったら、集めた保険金でもっとたくさんの優勝金をあげましょうと。保険金を積み立てて優秀な人には、ただ払ったものを返すだけではなくて集めた掛け金いくらか出そうじゃないかということで、保険会社の考えかたが根本から変わったと受け取りました。

銀行も変わりました。最近調べてみたら銀行がお金を貸すときの金利をみたら、銀行はやっていけない金利です。1%どれだけ下回るかって競争をしている。そんなことでやっていけるのかと思う。銀行は利ざや稼ぎからはもう撤退しましたね。違う仕事をしようとしている。ところがやりかたが分からないから、アホな銀行ほど利ざや稼ぎでまだ色目を使っている。

それから恐怖感を持たない会社はやっぱり、そのうち駄目になりますねということを最近は特に感じます。

時間になりましたので終りにします。有難うございました。